

中央市立田富小学校

令和2年度 具体目標と評価方法と主な取り組み

対象 総合評価	評価項目 (今年度の重点項目) (前表に掲載)	評価 担当	具体目標	評価方法と評価基準	主な取り組み
社会を 生き抜く (生)	1 自立の基礎 を増やす	小野 教頭 古屋	●目標をもって学校生活を送り、振り返りにより自己の成長や新たな目標に気づく子どもの育成	○学校評価の児童アンケート「あなたは、目標をもって学校生活を送っていますか。」の項目に対し、「そう思う」と回答する児童を50%以上にする。	○帰りの会や授業の終末に1週間に1回以上、時間を決めてつなげる日記を書く。 内容例①授業や学校生活で感じたこと、気づいたこと ②自分が成長したなと思ったこと ③困っていることや悩んでいること ④本や新聞やテレビなどを見て感動したこと、疑問に思ったこと ⑤登下校中に気づいたこと ⑥インタビューして分かったこと
			●基本的な生活習慣を身に付けた子どもの育成	○内容を通信型ゲームやスマートホンの使用などに絞りながらノーテレビ・ノーゲームの取り組みを継続し、長期休暇や休日でも2時間以上に上るよう、着用率は36%を50%以上への向上を目指す。	○全校集会や学校行事等において、活動前にゴールを確認し、活動後に評価させる。
			●自分の命を守ることができる子どもの育成	○交通安全についてのアンケート調査を行い、ヘルメットについては所有率が昨年度末40%を60%以上に上るよう、着用率は36%を50%以上への向上を目指す。	○毎月ノーテレビ・ノーゲームの取り組みを継続し、各学期、長期休暇などについても状況調査を行い、お便りやブログなどによる保護者への啓発や掲示物による児童への啓発に取り組んでいく。
確かな 学力 (生)	2 聞いて考え、語り合う 子を育てる	山田 前野 井上	●話している人を見て、考えながら最後まで聞くことができる子どもの育成	○2学期終了時までに、すべての児童のあゆみの評価が○◎になるようにする。	○各クラスにの関き方のルール掲示を活用し、児童が常に意識して話を聞けるようにする。
			●聞いて考えたことを語り合い、学びを広げたり深めたりすることができる子どもの育成	○学校評価の児童アンケート「あなたは、授業中、友達の話聞いて自分の考えをよりよくすることができていますか。」の項目に対し、すべての児童が「そう思う」と答えられるようにする。	・教師がよき聞き手のモデルとなる。 ・ホワイトボードを使って、グループで話し合ったことをまとめ、発表する活動を行う。 ・授業中の担任は、児童の発言をつづき役割を 果たす。 ・つなげる日記ややってみるじゃん ノートの記述を話し合いの材料として活用する。
	3 読む子を育てる	鷹野 青柳	●本が好きな子どもの育成	○うちどくカレンダーに半分以上○がつく児童を、各学級60%以上にする。	・図書委員会の活動を通して、読書の楽しさを伝えたり、多読を奨励したりする。 ・うちどくカレンダーの取り組みを継続して、子どもの読書生活に対する保護者の関心を高める。 ・うちどくカレンダーに保護者と担任チェック欄を設け、一週間に一度ほどのペースで確認し、声かけをする。 ・読書率をクラス毎集計し、達成したクラスの担任の先生にどのように取り組んでいるのか全体で共有できるようにする。
			●音読したり暗唱したりすることを楽しむ子どもの育成	○好きな詩や物語の一節を暗唱できる児童を、各学級85%以上にする。	・うちどくカレンダーへのコメント、保護者のおすすめ本紹介など保護者を巻き込んだ企画を考える。 ・音読カードを活用して家庭でも音読に取り組ませ、音読への意欲と技能の向上を目指す。 ・読み聞かせやリズムのよい名詩名文を声に出して読む活動を、授業や朝活の時間に組み込む。 ・暗唱カードを活用して家庭でも暗唱に取り組ませ、暗唱への意欲向上を目指す。全校集会など全校で集まる時に発表し、取り組みの活性化を図る。
	4 確かな学力を 支える授業づくり	武井 内藤	●毎時間ごととのめあての達成に向けて、自ら問いをもち、仲間とともに学び合うことができる授業を創造する。	○学校評価の児童アンケート「勉強する力が伸びたなあ」の項目に対し、「そう思う」(肯定回答)の割合を、昨年度の結果(88.8%)以上に上る。	・各種学力検査の分析と支援が必要児童の把握により、共通意識を持ち組織として支援を行う。 ・担任が板書記録ノートを作成し、自分の授業を振り返り、授業改善に取り組む。 ・田富小スタンダードに沿った授業の実施。特に食育の視点を生かしたカリキュラムマネジメントの工夫を通して、既習事項やこれまでの経験を生かした課題設定や自力解決に力を入れる。
豊かな心 (信) (命)	6 心の居場所と 支え合う学校生活	三森 木内 佐藤	●安心して学校生活を送り、気持ちよく活動できる学校作りと支援体制の確立。	・学校評価項目の「学校が楽しいか」において、否定的な回答をする子の割合を8%未満にする。 ・「何かあったとき、先生方に話しているか」において、肯定的な回答をする児童を80%以上に上る。	・「学校生活は楽しいか」のアンケートの分析と、早期対応・解決、ならびにQUの分析と対応。 (学年で取り組む) ・PT、朝活などでじっくり児童と話す時間を確保し、否定的に考える児童に寄り添い相談できる関係づくりをすると共に、解決策を考える。 ・道徳や学級の時間を通して、相手と傷つけない言葉づかいを考えたり、相手を気遣う心や態度を育てたりできるよう、学級で取り組みを進める。
			●学校・家庭・地域で、あいさつができる子どもの育成	○学校評価項目の保護者アンケート「あなたのお子さんは、あいさつがよくできていますか。」という項目の回答で、否定的な意見(あまりそう思わない・そう思わない)が昨年度16.2%だったので、今年度は14%以下にする。	・どのようなあいさつを目指すのかを各学級や代表委員会で話し合い、あいさつの仕方を共通理解する。その時に、学校内だけでなく、地域の方へのあいさつの仕方も考える。 ・全校であいさつ当番に取り組む。児童会本部から曜日や場所の分担を各クラスに提案し、上級生が手本を示しながら、あいさつへの意識を高める。 ・地区集会や集団下校の時に、地域の方へのあいさつの仕方を確認して、登下校中も地域の方や旗振りをしてくれる保護者の方に積極的にあいさつをするように促す。 ・「あいさつカレンダー」を作成し、家庭や地域でのあいさつに視点を広げさせる。
	8 共生の教育	清水 ひ 谷口 落合	●多様な他者を知り、尊重し、折り合いをつけながら目標に向かって共に学び共に活動できる子どもの育成	○学校評価調査の児童の項目の「誰とも仲良く協力して活動していますか」の項目に、4・3(そう思う・ややそう思う)と答える児童の割合を90%以上に上る。	○フレンドシップ委員会の活動を通して世界の国の言葉、文化、自然などに親しみがもてるように働きかける。 ・ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、タイ語のあいさつカードを各クラスに配布し、朝の会であいさつをするように働きかける。 ・校内(階段などに)簡単な挨拶を掲示し、多文化共生の感覚を養う。 ・食文化や国旗、民族衣装、タイズなどを取り入れたフレンドシップ集会を行う。 ○校内支援委員会が確認された児童だけでなく、終礼や職員会議の知ってもらい子で挙げた児童について、指導・支援の共通理解を職員全体で図り、指導・支援の視点に必要に応じて取り組む。
健やかな体 (命)	9 体力向上	小坂 前野	●走力の運動能力を高める運動を通して、健やかな心と体で日々生活を送れる子ども	・走力の運動能力を高め、50m走(6月・12月測定)で全国平均記録以上となる児童を65%以上(前年度60%)にする。	○体育の授業の中に、走の動きを取り入れた運動を行う。 ○晴れた日のフリータイムには、外で遊ぶように教員が声をかけ、運動時間を確保し、児童の運動量を増やしていく。 ○体育委員会を中心に企画、実施するスポーツ大会や、他の委員会と連携し、「走の動き」に関わる運動遊びを行う。 ○外遊び啓発ポスターや、運動週間(仮)などの取り組みを行い、運動時間を増やし体力向上につなげる。
	10 積極的な情報発信と連携	校長 佐久 間 河野	●学校生活に対して積極性を持って生活できる子ども	保護者への学校評価アンケートで、「学校からの情報発信や連携がよく図られている」と「教職員は、あなたのお子さんのことをよく理解していると思いますか」の肯定的な評価が、高い割合を得ているが、今年度は95%以上を目指す。また、ホームページや学校ブログについて、80%以上の人の閲覧を目指す。	○お便りだけでなく、電話連絡を密に取る。問題行為だけでなく、良いことも積極的に電話連絡する。 ○各学年が自由にブログの更新をできるようにし、ブログの記事の充実を図る。 ○アンケート項目に、「あなたは、学校の情報を得るためにホームページやブログを今年度閲覧しましたか。」を新設する。